

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

B U N K A T S U S H I N

2021冬 No.112



## 財団賞の29年の歩み

財団設立の平成5年から始まった財団賞は、今年で29周年を迎えた。本年度の財団賞を受賞されたのは、牟礼町の石切り唄保存会でした。授賞式では、年度当初に決まった助成金の認定証も併せて授与される。今年度はEclogion、讃岐源之丞保存会、富田紀久子さんでした。財団設立の大きな目的は、郷土の文化を大切に考える皆様を応援する事にあります。

- 11月懸釜「綺麗さびの茶の湯の世界」
- 第7回 あ・うんの数寄講座  
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習
- 12月から2月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212  
2021年冬号 No.112 12月1日発行(季刊)



令和三年辛丑歳霜月三日

# 綺麗さびの茶の湯の世界

文化の日の十一月三日。コロナ禍の第五波が治って約一ヶ月。かねてより準備を進めてまいりました遠州流茶道 家元主鑑 浅井宗兆宗匠の還暦のお茶会を実現することが出来ました。

高松では、遠州流のお茶会は珍しいと思いますが、遠州公ゆかりのお道具については、これまでも様々なお茶席の中で度々拝見する機会があったのではないかと思います。

小堀遠州公は、千利休、古田織部に続く「天下一宗匠」として認められ、村田珠光から繋がる茶の湯の正統を受け継いだ大名茶人です。徳川家に伏見奉行として仕え、三代將軍家光の茶道指南役を務めながら独自の美を創造し「綺麗さび」の茶を確立しました。

令和二年の財団の夏期講習では、遠州公の茶の湯に対する考え方として代々伝えられた「書捨文」が床に掛けられて、皆さんで唱和させていただきました。茶の湯は多くの人の力を借りて成り立つものである。とか、「春は霞、夏は青葉がくれのほととぎす、秋はいとど寂しさ勝るゆうべの空、冬は雪の暁。いずれも茶の湯の風情ぞかし」と、季節感を積極的に取り入れたのも遠州公でした。

さて、当日は、羽織と袴姿で「ご機嫌よろしゅうございます」の遠州流独特のご挨拶から、逢真庵・浅井宗兆宗匠のお茶会が始まりました。ここからは会記を中心にお話を進めて参りましょう。

美藻庵 濃茶席 逢真庵 浅井宗兆

床 烏丸光廣御筆 小倉色紙 添状 下に冷泉為頼筆 折紙 古筆了佐筆 添状

床 本席 藤原定家御筆 小倉色紙 参議等詠歌 あさちふの をのしのはらしのふれと

花 加茂本阿弥椿 白花万作 古銅 象耳

花入 祥瑞 本手立瓜 松竹梅文 香合 瀬戸 六角 烏帽子

水指 寶珠 松乃繪 二代五郎左衛門浄清作 釜

縁 箱書付 九世宗本公筆 桂離宮 御池古材

茶入 箱書付 十一世其心庵宗明宗匠筆 高取 耳付 銘 苦屋

挽家蓋甲字形及内箱書付 権十郎鎌雪 外箱書付 紅心宗慶宗匠筆

歌銘 見渡せば花も紅葉もなかりけり 裏の苦屋の秋の夕暮れ

新古今和歌集 藤原定家御詠歌 緑地二重菱小牡丹文金襴 しじら間道

仕服 遠州蔵帳 五器手 ひづみ 内箱書付 小堀遠州公筆

茶碗 遠州蔵帳 外箱書付 紅心宗慶宗匠筆

出袱紗 七宝つなぎ文 金毛織 遠州公作共筒

茶杓 寛永十六年 六十春耳順正月五日造 銘 五ヶ日 箱書付 紅心宗慶宗匠

建水 木地曲 青竹 引切 七宝文透し

蓋置 達真庵好 時かさね 宇治小山園製

茶銘 龜甲乃鶴 越後大和屋製

菓子 杉へぎ銘々皿 井川信斎作

以上が、濃茶席の会記です。

美藻庵の床に定家筆の小倉色紙が掛けられたのは初めての事で、最も遠州流らしさを感じた一瞬でした。

茶の湯に歌掛物を重用した遠州公は、幼少より王朝文学に親しみ茶の湯に優美な世界を創り出されました。道具にも、それぞれに相応しい和歌を選び「歌銘」が付けられたものが沢山あります。

また、後に中興名物として分類された祥瑞の香合や、高取の茶入れなども綺麗さびを満喫させて頂ける思い入れの籠つ





た組み合わせとなりました。

さらに 遠州蔵帳の五器手茶碗「ひづみ」や遠州公還暦の正月三が日五日に造られた茶杓「五日日」。濃茶に添えられた出帛紗の七宝繋ぎの文様は、遠州流の家紋でもあります。水指は、宗匠ご自身の還暦を意識して少し歪な六角形の瀬戸「えぼし」。

それぞれのお道具は浅井宗匠の堂々とした見事なお点前の中で生き生きと輝くような印象となりました。

晴松亭 薄茶席 遠州流茶道 松山支部

床 森村宜永筆 三船御遊

床 本席 其心庵宗明宗匠 両筆 横物 紅心宗慶宗匠 大字 宗明宗匠 萬法帰一 小字 宗慶宗匠

花 肥後菊 梅擬

香合 宗実家元筆甲歳好 交趾菊蟹香合

風炉先 遠州蝦子 片腰 箱書付 宗実家元筆 紅心宗慶宗匠好 幸来棚飾り 亀甲房 中谷光哉作

水指 砂張 廣口 井上世外旧蔵 釜 唐八景釜 平沙落雁 煙寺晚鐘 根来実三作 瀟湘夜雨 江天暮雪 漁村夕照 山市晴嵐 遠浦帰帆 洞庭秋月 七宝文陰陽時絵

縁 桑木地

茶器 遠州好 朱

糸目瓢箪七宝繋文時絵 中次

茶碗 紅心宗慶宗匠昭和五十八癸亥歳 近藤道恵作 華甲好 一雙

箱書付 紅心宗慶宗匠筆

主 色絵 菊蟹文 矢口永寿作 副 色絵 龜甲七宝繋文

茶杓 紅心宗慶宗匠作 共筒 以江州孤篷庵古竹造

詩銘 嘉辰令月歆無極 萬歲千秋樂未央

建水 銀河釉 合子 中尾哲彰作 蓋置 湖東焼 色絵 七宝宝尽文

茶銘 宗実家元好 嘉令乃白 宇治福寿園製 菓子 紅心宗慶宗匠好 大有糖

京都鍵善良房製 荳盆 宗実家元好 一閑手付 中谷光哉作

火入 九谷 七宝繋文 荳入 縞里檀 寶珠

煙管 遠州好 南鐐一雙 箱書付 紅心宗慶宗匠筆

灰吹 青竹

広間の薄茶席は、遠州流の松山支部の皆様が席を持たれました。前日より入念な準備をされて、ご亭主を任された中のお一人が、やはり昨年夏期講習で「茶の湯と漢詩の心」でご講演くださった諸田龍美先生でした。

床飾りは、還暦でひと回りして、また改めて一から始めるといふ決意の「萬法帰一」が掛けられていました。先々代の宗明宗匠が大きな一を、小さい字はお父

様の宗慶宗匠が書かれたものです。

更に染付けのオランダの花入れに鮮やかな肥後菊が入れられ、お香合は、お兄さまの小堀宗実家元が還暦の時に好まれた交趾菊蟹香合がそと置かれていました。

お釜は八角のそれぞれに見事な景色が描かれた唐八景釜。炉縁は桑木地に七宝文陰陽時絵で、そこ此処に遠州らしさが散りばめられたものになりました。この機会に財団の炉開も兼ねさせて頂いたので、この日のために炉壇も新たに塗り替えてもらいました。千家の炭の規格よりも二回りほど大きい菊炭に驚きましたが、美しく収まっていました。

華やかな広間の茶席の主茶碗は、昭和五十八年の宗慶宗匠の還暦の時に好まれた一雙の茶碗で、色絵菊蟹文と色絵亀甲七宝繋文。茶器は、遠州好みの鮮やかな朱の中継ぎで、立口に糸目瓢箪七宝繋文時絵が緻密に施されていました。

更に茶杓は小堀家の地元ゆかりの江州孤篷庵の古竹で造られた宗慶宗匠の手作りで、「嘉辰令月歆無極 萬歲千秋樂未央」の詩銘が還暦に相応しく、とても感動しました。宗慶宗匠は、宗匠に小堀家とご縁の深い浅井長政ゆかりの浅井家の再興を託されたそうです。

また、薄茶は、宗実家元のお好みみの「嘉令乃白」となると、これは宗兆宗匠しか出来ない取り合わせに、改めて多くの方の力が結集してできた素晴らしいお茶会だったんだと思いました。





# 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

今年の夏期講習は、コロナ禍の8月でしたが、人数を制限して、予定通り実施させていただきました。芦屋で道具商をされている小田先生は、以前にも、財団のあ・うんの数寄講座でもお世話になった春海商店の小田栄一先生の息子さんで、茶道具の専門家です。当日は貴重なお道具を持って来てくださいました。熊倉先生は、久しぶりのご登場でしたが、新たに利休から織部、遠州と続くお茶の流れについてまとめられたばかりで、いつもながら楽しいお話を語っていただきました。

第4回 8月22日(日)

## 「茶の湯の名物茶碗」

講師 小田 宗達 (御茶道具 小田商店店主)

室町時代の足利の宝物帳「君台観左右

帳記」には、あの曜変天目について「建蓋の内の無上なり 世上に無きものなり」と記されています。天目茶碗そのものに對して「これは良い!」とした室町時代の人たちの美意識や価値観とそれを所持した人や伝来(あの人が良いと言うなら間違いないだろうという共感や安心感とストーリー)が、その価値を上積みして名碗になり国宝にまでなったのかな?というのが、おぼろげな名物茶碗に対する僕のイメージです。天目、青磁、珠光青磁、人形手、雲堂手、古染付、祥瑞、呉州、絵高麗などの唐物茶碗や、狂

言袴や井戸、三島、粉引、呉器、堅手、玉子手、割高台、熊川、斗々屋などの高麗茶碗に、安南、宗胡録、島物など。渡来物の名物茶碗は、当時の人が「お!これええやん!」と思ひ持ち帰ったことが始まりで、権力者や著名人がそれに共感し箔がつき価値が高まり現在に伝えられていると考えられます。

また利休による楽焼や国焼、織部時代の御所丸や、遠州時代の御本などは「お!これええやん!」から更に茶の湯の進化にともなう、「こんなのが欲しい!」というディレクションが加わります。「お!これええやん!」「こんなのが欲しい!」と思う理由は、それぞれの名物茶碗の特徴に現れていると思うのです。

みなさんはお店や展示会などでお茶碗を見た時、「うわ、たっか〜!なんぞこんな!?」とか思った事ありませんか? その高価な茶碗の最たる物である名物茶





碗のそれぞれには、時代とともに変化する価値観をも飛び越える説得力、その名物たる理由があつて、それがわかれば納得です。今回の講座でお話頂きました数々の名物茶碗のそれぞれの特徴、その特徴が「これは良い!」「こんなのが良い!」とされる理由である、と思えば鑑賞の楽しみの幅も広がってくると思います。

私にとっての名物茶碗は、なにぶん雲の上の世界のような話で、財産をはいてそれらを買収求めるのも、影響力がもてるように精進するのも、まだまだ現実的ではないように思います。でもまずは今この瞬間に目の前の茶碗を「お!これええやん!」と楽しむことが大事で始まりだと思っています。これどうやって作った?とか、見込み部分や胴にほどこ

された意匠、高台の形、轆轤目、梅花皮、景色や銘などなど「お!これええやん!」のポイントがそれぞれの名物茶碗の特徴ともなっていると思えば、知っておくと後生に伝わる茶人ならではの文化的日本人的な美意識を養う糧になるかもしれませんし、後の世の名物茶碗を生み出すきっかけになるかもしれません。また、お茶会に呼ばれて正客になった時、良い正客が出来るようになるのでは、とも思っています。

講師の小田達也さんは芦屋の小田商店店主。流儀にとらわれず古い茶道具を取りそろえた雰囲気の良い店内で、月釜も開催されております。ご興味のある方はFace Book「小田商店」にアクセスしてみてもいい。

(原 大策)



第5回 8月29日(日)  
「利休・織部・三斎・遠州の咄」  
熊倉 功夫 (MIHOMUSEUM 館長)

現在、館長をされている滋賀県信楽町にあるミホミュージアムについて「パリ・ルーブル美術館のガラス張りの建物を設計したI・M・ペイ氏の設計によりオーブンした美術館で山の中にあるので猿の訪問もあります」と笑顔でご紹介してくださいました。今日お話しくださる「茶道四祖伝書」はこの四人について最初に書かれた書物で、熊倉先生が現代語訳をされましたが原文の資料を解説しつつお話ししてくださいました。

● 利休の咄

・花入れがない

利休より「花入れ到来 候間只今待候」と御使いがきましたので、加賀肥前守、蒲生飛州、与一郎殿の三人が入座するが、ついに花入れは出さず、思案するも言い出せず、ついに路地に出たとき、利休が「今日は花入れをお見せするためにお招きしました、ご覧になりましたか?」と問われ三人はついに見る事ができず「花入れはありません」と言った時、塵入を教られ見るとそこには椿の花が見事に入っていた。趣向・演出が

大切であることの教えです。  
・汗バシリの紹春

利休が奈良去人宅へ立ち寄った時、汗バシリの紹春が居り、涼しく見せようとして水差しに蓋をせずに持ち出したところ「ホコリがはいっているではないか」ときつくとがめられた。ホコリにはとても気をつけなければいけないとの教えです。

・利休の最後——これは他に書かれていない話

太閤秀吉から堺にて切腹を申し渡され淀から船で下る時、数人の弟子のうち細川忠興公と古田織部殿だけが見送りに来られ、師匠のために乗物を用意したが利休は「不要」と言い堺の自宅に向かわれた。切腹の様子は資料の文章のまま記しますので、皆様で読み取ってください。

堺ノ宅二入、小座敷四畳半ノ炭ヲナオスモ自身ナリ。釜ノ湯タキルヲトヲ聞、床ニ腰ヲ掛テカイナツカヘ候得ハ、此置合ニテハ無之トテ、ニシリヨリ腹ワタヲ取出シ、自在掛ノヒルカキニ腸ヲ掛テ、十文字ニキル、カイシヤクヲソシト也。率爾ニカイシヤクスナ、手ヲ上ケタル時ウテト約束アリシト也。

● 古田織部の咄——歌舞伎もの(大胆でひょうきん)と言われた方でした

・茶の湯入門

初めは茶の湯が嫌いだったが、知音楽のたくみなはからいで上々の茶



人となったとのこと。

### ・鷺の絵

利休に茶の湯の極意を訪ねた時「南京（奈良のこと）ノ鷺ノ絵ヲ持参スルナラハ天下ノ数寄合点行ヘシ。左モナクハ未タ参得行ト心得ヨ、早々下リ申セ」と言われた。この鷺の絵の空の部分には何も描かれてない。この空白の中に何を見るか？これが利休の侘であり、「早々に下れ」と言われたのは、師匠が言われたことはすぐに行うことの教えです。

### ・織部の工夫

外路地と中路地の間に中門を設け二重路地の形式を始めたのが織部でした。現在、広島上田流和風荘に復元されています。

### ●細川三斎の咄——利休の最後の弟子

で、武将として優れていたので改易など受けなかった

### ・将軍のお茶

家光公三十五才の折、江戸城西の丸、お客は七十六才の三斎一人。当時は茶道具の希望を聞いて茶会をしていたので、全日に好みを聞かれ「投頭巾、安国寺虚堂、鶴の一声、この三種を拝見したい」とも申し上げ、招きにあずかった。道具の希望を聞かれた場合、相手にもよるけれどお持ちの道具をよく知っているとと思われるためにも「今までは、何々を見せていただきました」と答えるのも控え目いいでしょうとの



お勧めでした。

### ・三斎と蒲生氏郷

この二人は性格が反対なので、利休にお互いにササエ（悪口）を告げあっていたが、ある時三斎が「氏郷ハ数寄伊達ヲスレドモ、数寄者二ハ非ス」と言った時、利休は「何ハトモアレ、数寄サエスレハソレモ能シ」とおっしゃられたとのことお話しです。

### ●小堀遠州の咄

#### ・少年遠州、利休に会う

遠州が十歳の折、大和太納言（秀長公）を太閤殿下が利休を連れて訪れた時に給仕をしました。そこで木綿頭巾でお茶を点てている姿を風通しのために障子を開けた一瞬、その



隙間から見えた。実際に利休に会った見たりした人はほとんどいないので遠州にはとても貴重な記憶となっている。このような息使いを感じる思い出話が載っているのが茶道四祖伝書といえる。

・綺麗で伊達——この伊達は寛永の文化で仁清・探幽・桂離宮のように美しいものでした

遠州のお点前はとてもきれいです。茶巾の扱い、茶碗をまわし湯をすてることも手間はかけず、汲みだしも静かで茶碗に入れる、まるで流れるような所作が見えるようです。

### ・遠州の数寄

牙蓋を作ろうと、蓋引の半清を京

へ呼んだが来ない。そこで、馬を差し向けたがやはり来ないので非常に立腹し、奥より象牙を持ち出して丸蓋をお挽きになった。宗甫公云「随分腹立候得共、昨夕ヨリ今迄之腹ヲ捨ニスル分也」と。道具を作る時には腹立ちを捨てる、つまり、道具を大切に作る心の教えです。

とても貴重な四祖伝書のお話を聞くうちにタイムカプセルで当時の世界に降り立った気持ちになりました。目まぐるしい現実の生活の中でも心穏やかにお茶をいただく時を持ちたいとの思いを抱かせていただいた講座でした。

（千葉規美子）

## 甘い季節になりました

さつまいもの美味しい季節になりました。スイートポテトに芋けんぴ、大学芋も美味しいですね。

寒くなると外から聞こえてくる「い～しや～きいも～」のこえ。甘いお芋の香りに誘われて買ってしまおうことはないですか？

子供の頃は庭先で落ち葉を集めた中にさつま芋を入れて焼いていましたが、近年はそれでもできなくなりました。

一般的に石焼き芋といえば、鉄製の窯に敷いた石の上に載せて焼くことで、石から出る遠赤外線の効果を利用する焼き方ですが、その他かまどの上に鋳物の浅い平鍋を載せて焼く『かまど焼』。先端を曲げた針金にさつまいもを引っ掛け壺の周囲に沿って吊るして焼く『壺焼』。立てたドラム缶の底にレンガを積んで練炭などを収めて燃やす『ドラム缶焼き』があり、最近ではスーパーマーケットの店頭などで『電気オープン焼き』も見かけるようになりました。

併せて、ねっとりとした食感と濃厚な甘さの「安納芋」。絹のような舌触りの「シルクスイート」。ホクホク代表の「紅あずま」など、さつまいもの種類も増え、さつまいも専門店も多く見かけるようになりましたね。

好きなさつまいもで、好きな焼き方を見つけて食してみたいかがでしょうか。



## お茶の風景(14)

## もうすぐお正月

師走に入ると商店街は歳末大売り出しで活気づき、主婦は何かと気ぜわしく迎春準備に余念がありません。子供たちは新年用の晴れ着をこっそり羽織ってみたり、お年玉の集金を予算立てたりしながら「もういくつ寝るとお正月」と指折りのうきうき気分。落語の世界には節季払いの掛け取りへの言い訳に四苦八苦する庶民の年越し風景もあります。

そんな古きよき時代もすっかり様変わりして、餅つきもおせち料理も商業ベースで進み、儉約な日常「ケの日」に対する特別贅沢な「ハレの日」、という風習もなくなりました。経済が発展したおかげで、衣食住全ての毎日が豊かになったからでしょう。

年賀状に日頃のご無沙汰を詫びる一文を添えながら一年を締めくくり、明けて、届いた一葉で親しい人たちの無事を確かめながら、お雑煮の後、台所で点てた封切の抹茶でお薄を自服して、私の新年が始まります。



## 財団行事予定(12月～2月)

休館日  
水曜日

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽中止になる事もあります。お出かけの前にご確認ください。

## 12月

- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日  
森本義人先生  
12月3日・17日(金)午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日  
高橋初乃先生  
12月10日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)  
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生  
12月11日・25日(土)午後1時～
- ◆ 12月月釜 五人様茶会  
日時 12月12日(日)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
濃茶 石州流宗家高松会 上里宗美  
薄茶 石州流宗家高松会 寺岡宗由  
会費 5,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間(各席2時間15分を予定)  
第1席 A席・B席 9時  
第2席 A席・B席 10時30分  
第3席 A席・B席 11時15分  
第4席 A席・B席 12時45分  
第5席 A席・B席 14時15分
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
12月21日(火)午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。

## 1月

- ◆ 初釜  
京都 円山公園にたたずむ蘇鐵庵の主・水守清隆氏が點初のお席を設けてくださることになりました。水守さんは、木下孝一棟梁や北村美術館茶会の水屋にもお手伝いいただきました。  
好例の福引もありますのでお楽しみに。  
日時 1月5日(水)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
席主 表千家流 蘇鐵庵 水守清隆  
会費 15,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間(各席8名・2時間30分を予定)  
第1席 9時 第2席 9時50分  
第3席 10時40分 第4席 11時30分  
第5席 12時20分 第6席 13時10分  
第7席 14時  
申込 電話受付 12月6日(月)10時～
- ◆ 書道教室 森本義人先生  
1月7日・21日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
1月8日・22日(土)午後1時～
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
1月14日(金)午前10時～12時
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

1月18日(火)午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。

## 2月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
2月1日(火)午前11時・午後3時
- ◆ 書道教室 森本義人先生  
2月4日・18日(金)午前10時～12時
- ◆ 2月月釜 五人様茶会  
立春を迎え、厳しい寒さの中にも春の兆しが見え始める季節。皆様のお越しを心よりお待ちしております。  
日時 2月6日(日)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
濃茶 石州流讃岐清水派石州会 野口宗真  
薄茶 石州流讃岐清水派石州会 金澤宗和  
会費 6,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間 12月五人様茶会と同様  
申込 電話受付 12月20日(月)10時～
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
2月11日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
2月12日・26日(土)午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
2月15日(火)午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。



## 茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL 090-4337-1280

1/30 多度津分会 月釜 席主：仁信宗和  
総合福祉センター2F 500円 10:00～15:00  
3/6 善琴分会 月釜 席主：香艸会  
樟蔭軒 600円 10:00～14:00

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

1/23 香川官休会月釜 無量寿院 700円 9:00～14:00

高松市香南歴史民俗郷土館

TEL (087) 879-0717

<由佐城月釜茶会>

茶会7日前までの予約制(前売券・入席時刻指定)

第2研修室(和室) 500円 9:30～(全6席)

12/19 席主：森本宗恵(裏千家 高畑宗稔社中)

2/20 席主：金澤志保(煎茶道三癸亭賣茶流)

料亭二蝶

TEL 0120-86-0220

12/22 季楽茶会(予約制) 席主：山本守蝸(武者小路千家)  
料亭二蝶 6,000円 10:00～(全4席)

2/9 季楽茶会(予約制) 席主：山本守蝸(武者小路千家)  
料亭二蝶 6,000円 10:00～(全4席)

## ● 財団からのお知らせ

### 中條文化振興財団

### 茶室のご利用案内

財団の茶室「晴松亭」は、平成9年の竣工当初より、貸し茶室として運営されています。本格的な茶事から大寄せのお茶会まで対応出来るお茶室として、設計されています。

茶の湯を取り巻く環境は、近年、大きく変わりつつあります。本格的な茶室の建

築は、材料の調達や数寄屋専門の大工の存在なども、存続の危機に瀕しています。また、建築基準法の変更による日本建築の危機もあります。

財団の茶室の存在は、本格的な茶の湯を志す皆様にとっては、今後ますます欠かせないものとなると思います。

また、お茶会やお茶の稽古などに限らず、これまでも能や舞、展示会、音楽会、演劇の舞台などにも使われています。

て、とりあえず場所を見学していただいで、ご相談いただいたら新しい使い方が生まれるかもしれません。

和の空間というのは、障子や襖を外してスペースを調整できるので、意外に面白い使い方にも生まれるかもしれません。

もちろん、茶事や茶会を実現するために料理の手配や進め方などの相談にもきめ細かく対応させていただきますので、財団まで遠慮なくご連絡ください。

## 令和4年度 助成金応募受付中

### ● 対象事業

令和4年4月1日から令和5年3月31日までに実施予定の文化事業。  
詳しくは助成基準をご覧ください。

### ● 応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。(HP参照)

**応募締切は、令和4年1月末日。**

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。令和4年3月末までに結果をご連絡致します。

### ● 助成金

30万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

助成基準、所定の申請書等は、当財団ホームページよりご確認くださいか、事務局までお問合せ下さい。

<https://chujo-zaidan.or.jp>

## 編集後記

新型コロナウイルスも少しづつ収まる傾向が見られ、様々な制限も解除されてきています。控えていた年末年始の行事予定を立てていらつしやる方もいらつしやることでしょう。平穏無事がどれほど大切なことなのかと痛感させられた二年間でした。

さて、瀬戸内芸術祭の取り組みも発表されました。どのようなアート作品が見られるか楽しみですが、「アフターコロナ」の活動の応援になり、文化芸術のみならず伝統文化の発表の場も盛んになるようにと願うばかりです。

新しい年も油断をせずに感染防止の基本を守り、県下の様々な文化活動の発展のために歩んでまいります。

【声・情報お寄せください】

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL (087) 826-1335

FAX (087) 826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp